

貴重書と和刻本と

# 日本人のよんだ 漢籍



君子子乎  
不亦樂乎  
而時習之  
不亦樂乎

子曰學而時習之不亦樂乎  
有朋自遠方來不亦  
樂乎

子曰學而時習之不亦樂乎  
此為書之首篇也  
入道之門積德之  
章十六

子曰學而時習之不亦樂乎  
王肅曰時者庶  
誦習以時學無廢業  
遠方來不亦樂乎  
不亦樂乎

子曰學而時習之不亦說乎有  
朋自遠方來不亦樂乎人不知  
而不愠不亦君子乎

子曰學而時習之不亦說乎  
師曰子云曰  
之為曰此レヨリ以下孔子ロラヒテ談説スルノ  
虎通ニ覺ナリ悟ナリアリ先王ノ道ヲ用イテ人  
積ンテ君子ノ徳ヲナスナリ其學ニ三時アリ  
ト云ハ内則ニアル如ク六年教之數歳分名七  
年教之數年十年學書詩十三年學樂  
幼年ノトキハ五歳モツヨク志レサルモノナリ  
次ニ十歳ベキ時ニ及テマナブラ先トスル  
書禮コレハ詩書禮樂ニオフ  
五歳ト古聖王ノ



平成 23 年

入場無料

9/22 木 ~ 10/21 金

※10/15 土・16 日は閉室

平日 9:00 ~ 17:00

土日祝 10:00 ~ 17:00

特別講演会 「日本人のよんだ漢籍」

10/9 日 13:30 ~ 15:30

講師 谷口孝介

大学院人文社会科学部研究科芸文・言語専攻教授

主催 筑波大学附属図書館 / 大学院人文社会科学部研究科

会場 筑波大学附属図書館 (中央図書館 貴重書展示室)

# 日本人のよんだ漢籍 貴重書と和刻本と

日本人は古代から中国の文物を愛し、影響を受けてきました。『遊仙窟』などのように中国では散逸したものの、日本にのみ伝わる書もあります。

本特別展では、筑波大学附属図書館所蔵貴重書の中から、『論語』、『文選』、『白氏文集』など、日本人が古代から愛着をもって読んできた漢籍と、その一般への普及に貢献した訓点付きの和刻本を並べて展示し、日本人が漢籍を受け入れてきた実相を示します。あわせて近代日本漢学の様相を知るよすがとして、新収資料「鈴木虎雄関係史料」の一部を初めて展示・紹介します。



『遊仙窟鈔』



『長恨歌伝』

## 「鈴木虎雄関係史料」について

中国文学者・鈴木虎雄 (1878 ~ 1963) は『支那詩論史』『支那文学研究』等により近代漢学に大きな業績を残し、1961 年に文化勲章を受章しました。また、豹軒 (漢詩)、葯房 (短歌) の号を持つ漢詩人・歌人としても知られています。

本学では、平成 22 年 3 月に、御子孫から書状・書画等約 760 点の寄贈を受けました。自筆の漢詩文の他、舅である明治時代の新聞人・陸羯南 (1857 ~ 1907) からの書簡も含まれている貴重なコレクションです。

## 主要展示書目

論語集解 (室町時代写)	十卷五冊
古文尚書 (1514 年写)	零本 (巻八) 一冊
文選 (明版 1522 年刊)	六十卷二十冊
白氏文集 (1618 年刊)	七十一卷十四冊
遊仙窟 (江戸初期刊)	一冊
歴聖大儒像 (1632 年画)	六幅
和漢朗詠集 (1572 年写)	二卷二冊

### 交通案内

つくばエクスプレス つくば駅下車  
 JR常磐線 土浦駅・荒川沖駅・ひたち野うしく駅下車  
 東京駅八重洲南口より常磐高速バス  
 つくばセンター行つくばセンター下車



※できるだけ公共交通機関をご利用ください。

